

CNA Report

News & Analysis Focusing On Audio/Video/Data Collaborative Conferencing Market

Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・データ会議(Web 会議)専門ニュースレター

SPECIAL EDITION 毎月 15 日・月末発行 創刊 1999 年 12 月 8 日

発行人/編集人: 橋本啓介(Keisuke Hashimoto) kay@rr.ij4u.or.jp Copyright 2003 ケイ・オフィス All rights reserved.

NET&COM(日経 BP 社主催)レポート

ウェブベースビデオ会議のソリューションが多数展示 ハードウェアタイプはソニーと NOVA のみ展示

千葉の幕張メッセで日経 BP 社主催の NET&COM 2003(2 月 5 日、6 日、7 日)が開催されたが、「ビジュアルコミュニケーションパビリオン」があると聞いて行って来た。来場者は、3日間で 7 万 5056 人。ビジュアルコミュニケーションコーナーには、ソニーマーケティング、NTT ドコモ、NOVA、富士通、クレオ、ソフトフロント、ニフティ、NTT ブロードバンドイニシアティブ、日本アビオニクスが出展、ソニーのセットトップタイプのテレビ会議システムや、ウェブベースの IP テレビ会議などの製品の展示デモがおこなわれていたが、ウェブベースが非常に多かった。

ウェブベースのテレビ会議

各社のブースに回ってウェブベースのテレビ会議ソリューションを見てみると、それぞれの製品としては非常にいい製品だとは思いますが、若干の違いはあるが画面上の見た目は似ているし、機能も大してあまり変わらない感じがする。サーバーにログインをして、相手の画面が出てきて、アプリケーション共有、ホワイトボード機能、書き込み機能、ファイル転送、チャットなど、画面上のデザインが違うだけで、こら辺の機能についてはどこも同じなので、ユーザーから見た場合は特に、どこがどう違うのだろうかと思うのではないだろうか。最終的にはライセンス価格や保守サービスなどが製品選択の決め手になるのかもしれないが、他社との優位性と既存のハードウェアタイプなどのテレビ会議に対する優位性といった点ではっきりとした話があまり聞けなかったというのが正直なところ。また、プロトコルは独自モードがほとんど。

ソニー・マーケティング

また、ハードウェアタイプのテレビ会議としては、ソニーと NOVA が展示していてソニーはセットトップタイプ(モニター画面の上などに置くタイプのポータブルテレビ会議)の PCS-1600 と、プラズマディスプレイ 2 枚と PCS-6000 を組み合わせたテレビ会議システムの展示(写真)とデモを行っていた。PCS-1600 は、定



価で 798,000 円するが、説明員の方の話によると、IP テレビ会議を行う場合は別途 10 万円のソフトウェアアップグレードが必要とのこと。ちなみに、ソニーのテレビ会議は、市場では、ポリコム、

NOVA

NOVA では、廉価版のセットトップタイプを、展示、デモを行っていた。シングル画面モードや 4 画面分割でテレビ会議ができるという案内をしていた。非常に面白そうだったので私も一顧客を装って 128kbps の



写真左:NOVA ブース ISDN テレビ会議のデ

モを見た。やはり、正直言って、100 万円やそれ以上するソニーやポリコムなどのテレビ会議に比べると映像のクオリティーが若干落ちる感じがするが、それを割り切って使うのであれば、非常に手ごろな価格でそれなりの機能が盛り込まれたいい製品じゃないかと思った。

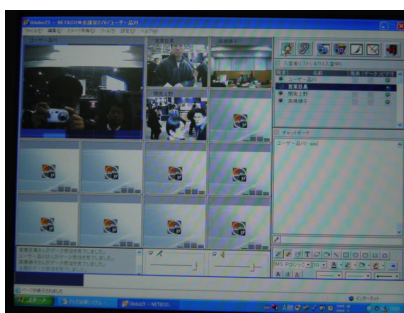
価格は 89,000 円で、市場の現状としては 15 万—40 万円の低価格帯のテレビ会議が現在のところ、NEC エンジニアリングやイタリアのアエスラ社、台湾のユニバーサル社が出している製品ぐらいしかないので、今後市場を活性化するためにはこの低価格帯、真空地帯を充実化させていくことが重要だと考えるが、この NOVA の動きも非常に面白いと思う。

低価格で販売していると、同社のステージなどで声だかにプロモーションしていたが、テレビ会議やテレビ電話を使用した経験や

知識がないと潜在的なユーザーに対してのアピールは難しいのではないだろうか。確かにテレビ会議を利用したりといった経験があったり、価格を知っている人からは面白そうだと思われるかもしれないが、NOVA のブースでは価格がなにか強調されていたような印象がある。それよりも、どのように使えるのか、どうしてこれらの製品が必要なのかというPRがあまり感じられなかった。これはなにもNOVAだけでなく他の出展者にも私としては感じられた。

富士通

何年前かに、富士通はハードウェアタイプのテレビ会議システム市場からは撤退しているが、最近では韓国のソフトウェアベンダーと提携して、“GLOBIZ21”というウェブベースのテレビ会議ソリューションを提供している。NET&COMでは、同製品の紹介と展示を行っていた。価格は、16ライセンス+サーバー(ハードウェア込み)で500万円。韓国の韓国現代自動車、韓国通信、起亜自動車も利用していると聞く。



富士通は昨年11月に、PDAで参加できる”Join Meeting”と呼ばれるウェブビデオコラボレーションサービスを発表している。これは、ASP形態でのサービスで、100地点(500人)の大規模会議やPDAでの参加できる機能を追加したもので、NATやファイアーウォールなどにも対応。

両者とも独自プロトコルで動作するため、H.323などの国際標準には対応していない模様。富士通は、当面はウェブベースのコンファレンスに注力していくのではないかと印象を持ったが、現在同社では韓国製ベースのGLOBIZ21と自社開発のJoinMeetingの2本のソリューションを出しているようだ。

両者とも独自プロトコルで動作するため、H.323などの国際標準には対応していない模様。富士通は、当面はウェブベースのコンファレンスに注力していくのではないかと印象を持ったが、現在同社では韓国製ベースのGLOBIZ21と自社開発のJoinMeetingの2本のソリューションを出しているようだ。

クレオ



クレオは、財務会計と人事給与の基幹業務パッケージなどのソリューションを提供しているシステムインテグレーターだが、FACEコンファレンスと呼ばれるウェブテレビ会議

ソリューションを展示、7-8人だったか、そのくらいの人が同時に実体験できるようにパソコンが円を描くように並んでいた。デモはパソコンが配置されているその真ん中に女性の担当者が立って、デモの参加者に実際にパソコン操作をしてもらいながらデモを行っていた。

同社は、FACEコンファレンス(写真上)という本格的なテレビ会議ソリューションから、エントリーモデルのFACEミーティング、また開発ツールキットみたいなFACE COMPOなども提供している。デモ会場では、説明員の方が、バージョンが3になったということと、バージョン2との違いを説明してくれたが、バージョン3では、メンテナンス機能やスケジュール機能が追加されたようだ。1ライセンスあたり確か10万円しない低価格。

NTTコムウェア

NTTコムウェアは、ビジュアルコミュニケーションパビリオン参加ではないが、さまざまなシステムインテグレーション系のソリューションが展示されていたが、その中で、VoIPソリューションとして、「ビジュアル・カンファレンス」(写真左)と呼ばれるソリューションが展示されていた。



要は、これは、多地点機能を持ったコンファレンスサーバーで、H.323やSIPに対応している。また、通常回線の音声通話に対するゲートウェイ機能も装備しているようで、IPテレビ会議の中で、音声通話の参加もできる。また、PCでのデータ会議もサポート。1会議での最大同時参加者数は、最小構成で16端末からサポートしている。

会議は、フリーな会議やパスワード保護がかかる会議、また、コラボレーション機能としては、資料表示同期、挙手機能、ホワイトボード機能などがある。PCにインストールするクライアントソフトではこれらの機能は利用できるが、既存のハードウェアタイプなどのH.323に準拠したテレビ会議ではサーバーに接続はできるが、一部利用できない機能もある。

5クライアントぐらいで、サーバー込みの価格は1000万円。いくつかの大企業や学校などに導入事例があるとのことだ。初期費用は高いという印象を率直に私は思ったが、説明員の方によると、それ以上のライセンス追加については割安の価格で追加ができてとのこと。

同社のブースでは、また、パソコンベースでのビデオコラボレ

ションソリューションである、「CollaboBIZ」や SIP に対応した NEXIPT SIP Softphone、さらに、ポリコム社の IP 電話 Polycom SoundPoint IP500 も展示され実際に IP 電話を試すことができるコーナーもあった。

ドコモ、NTT-ME、ニフティ、ソフトフロント、NTT-BB、日本アビオニクス

そのほかでは、NTTドコモの FOMA のテレビ電話、NTT-ME が、さまざまなソリューションとあわせて、WebExのウェブ会議サービスである、「TOCSR」や、IP テレビ電話サービス(パンフレットによるとラビジョンの VialP400をMCU多地点接続装置として利用しているようだ)、台湾リードテック社の IP テレビ電話「I・See」を展示。ソフトフロントでは、SIP ベースの IP テレビ電話「KISARA Personal ソリューション」、ニフティは、公立高校と国立大学を結んだ遠隔授業の利用事例がある「EyeBall パティオ」というウェブがあればできる IP テレビ電話の展示、NTT-BB は、ブロードバンドサービスのさまざまなサービスを展示するなかで、「映像コミュニケーションを利用した企業内・外コラボレーション支援パッケージ」として、PC ベースの映像会議サービスや最大 128 人が参加できる遠隔講義サービスなども紹介していた。また、最後に日本アビオニクスは、データ会議などができるマルチメディア遠隔会議システム「CollaboMate」の展示とデモを行っていた。

(NET&COM リポート終わり)

各社連絡先等

NET&COM リポート

1. ソニー株式会社 テレビ会議
<http://www.sony.jp/products/Professional/VIDEOCONF/>
2. NOVA テレビ電話 法人課 03-6688-6161
<http://www.nova.ne.jp>
3. 富士通株式会社 GLOBIZ21 IT プロダクト営業本部
プロダクトエンジニア統括営業部 TEL.03-3548-3738
4. 株式会社クレオ FACE CONFERENCE
<http://www.eface.jp/>
5. NTTコムウェア株式会社 ビジュアルカンファレンス等
ビジネスイノベーション本部 ビジネス企画部
sales@itp.nttcom.co.jp
<http://www.nttcom.co.jp>

CNA Report 編集長 橋本 啓介 kay@rr.ij4u.or.jp

TeleSpan (米)コントリビューティング・エディタ ジャパン

Videoconferencing Insight (英) 日本担当通信員

<http://www.hkeis.jp>

* 内容等にお問い合わせの際は上記メールアドレスまでお願いいたします。

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective
Since December, 1999
By Keisuke Hashimoto